

発行・お問合わせ
鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市ボランティアセンター
〒997-0033 鶴岡市泉町 5-30
Tel 23-2970 Fax 23-9110

鶴岡市ボランティアセンターだより

鶴岡で活動中 福島原発事故の被災者支援活動団体 フクシマの子どもの未来を守る家

※「フクシマ」とは、福島県に限らず、原発事故の影響を被った地域を指す言葉として使用しています。

①どんな活動ですか？

原発事故によって放射能汚染が心配される、福島県を中心とする地域では、子ども達が安心して戸外で遊ぶことができず、不安の中で子育てをしなければならなくなりました。

「子どもを放射能から守りたい」と願う家族が一時的な保養を希望する時、鶴岡市内に善意で貸し出してくださった民家で受け入れ、その「一時疎開と保養生活」をサポートし、野外活動を企画し、子ども達の健康回復や成長発達を支援、また親子共々のリフレッシュを支援する活動です。



安心して屋外で遊ぶ子供達

③活動する中で感じたこと、よかったこと

正しい情報が無かった為に、多くの方がしなくても良い被曝をしてしま



「家」の整備(雪囲い外し)に取り組むボランティアさん達

ました。子どもを被曝させた……と自分を責めるフクシマのお母さん達。

私の個人的な思いで始めた活動にサポーターになってくださった方々、また「フクシマの人達の為になら」と無償で空き家を提供してくださった家主さん、ボランティアセンターの呼びかけに応じ、「家」整備活動に御協力いただいたボランティアさん達、様々な企画に参加してくださった方々、多くの人達と出会う中で、人の持つ“熱”“良心”を実感しました。人は、“熱”“良心”でつながれることを感じました。



フクシマの子どもの未来を守る家代表高橋さん(前列右端)とサポーターの一部の皆さん

②活動を始めたきっかけは何ですか？

震災後「学校利用については、年間20ミシーベルトまで認める」との文科省の通達に対し、「20ミシーベルトは高すぎる値だ！子どもには危険！」と、校庭の土をかき集めて文科省に抗議の行動を起こした福島の親達の姿に強く心を動かされました。

④読者のかたへのメッセージ

「守る家」が鶴岡の多くの方々の支援で運営されていることを、フクシマの家族は、よく知っています。そしてとても感謝しておられます。今後もフクシマの家族に寄り添い、支援を続けて行きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

絆リポート

みなもと
行兵衛茶屋をたずねて
布目サロン

4月27日、活動を始めて半年あまりの布目サロン12名と人権擁護委員5名が石巻市の「みなもと行兵衛茶屋」を訪れました。出発に先立って手土産に御殿まりを考えていること話したら「自筆のカードをつけたらいいよ」と助言もあったので一生懸命カードを書き、お茶菓子などは？と話し合いをし、時節柄「花見団子」をおみやげにすることにしました。朝6時に出発し10時頃

到着。80名ほどの方々が集まっておりました。鶴岡の映像紹介、帯刀さんの民話の語り、仙台フィルの三十奏演奏などでひと時をすごし、行兵衛茶屋を退出してからは大川小学校とさんさん商店街を案内していただきTVだけでは得られない貴重な体験をさせていただきました。皆、石巻の方々から元気をもらってきたように思えてなりません。石巻の皆さん、本当にお世話になりました。蟻坂さんのお話のとおりご縁をいただきました。りがとうございました。

スクール ボランティア ライフ School V Life

鶴岡中央高等学校

ボランティアインターアクト部
おおば しょうや
部長 大場 翔也 さん



鶴岡中央高校ボランティア・インターアクト部は現在、35名で活動しています。温海のさくらマラソン大会のボランティアや赤い羽根募金をはじめとする募金活動、児童館等でのお手伝い等、様々なボランティア活動に取り組んでいます。ボランティア活動は、多くの方々と関わるため、手話教室や英会話教室を開催し、交流の幅を広げる工夫をしています。特に手話は、力を入れて、挨拶や自己紹介など、基本的なところから学んでいます。地域のみなさんのお役に立てるように、今後も様々な活動に取り組んでいきます。